

R. S. C. D. S.

# 東京ブランチレター

No. 41

いよいよ秋も深まり、もうすぐ冬の足音も聞こえてきそうですが、皆さまお健やかに過ごしていらっしゃいますか。踊りにも最適な季節となり、楽しくスコティッシュ カントリー ダンスを踊っていらっしゃることでしょう。今回のブランチ レターは、池間博之さんの”カントリー ダンスのマナー”についてと、サマー スクールにいらしゃったお二人の報告、ビギナーコース終了のお二人の感想、ソサイエティ創立75周年記念の東京ブランチ主催のパーティのご案内などが主な内容です。

## 「カントリー ダンスのマナー」

### — EASE と GRACE について —

池間 博之

#### 1) 話題提供

自然で優雅、すっきりとした態度、雰囲気、さらに礼儀正しく、教養と品の良さ・・・などはダンス以前の育ちや教育環境の問題かと存じます。しかし、約200年前の英国のダンス教師はダンス指導と共に、社会生活における好ましい立ち居ふるまい、みだしなみ、礼儀、教養、品位品格、会話術にかかわる広い領域を守備範囲としていました。

18-19世紀に活躍したロンドンの著名なダンス教師、T. ウィルソンはその著作の中で、『・・・立ち居ふるまい、態度、品行の訓練ではすべての動きに、イーズ (EASE-ゆったり、らくにする) とグレイス (GRACE-優雅、美德) が重要である・・・』と述べた上で『・・・これらはダンスの学習では身につかない・・・』とし、現在ロンドンの社交ダンス会場は悲劇的で、EASEとGRACEから程遠い状態にあり、その原因は多くのダンス教師が流行のステップやフィギュアの指導に熱心で、EASEとGRACEの法則に無関心であるからとしている。

#### 2) 私の意見

EASEとGRACEという言葉は現在のRSCDS協会の教本にもものっています。そして、EASEとGRACEを持って踊るためには、ある程度の筋力、柔軟性、持久力が必要で、脳からの命令が優れた足さばき、美しく流れるような動きになります。SCDではさらにパートナー、コーナーとの瞬間的な調整力・・・などが重要になると思っています。

個人でいくら努力してもSCDのEASEとGRACEを身につけることは不可能です。いろいろの人と踊ることで、個人的にすこしずつ積み上げていくのが技術 (アート) マナーです。3-5年の人は10-20-30年踊っている人のマナーを観察、評価してください。(単に長い間踊っているというだけではあまり意味はありません。)

これから”EASEとGRACE”を基準にして個人、グループ、クラス、パーティ

を分析して評価し各人のプラスにしてください。ブランチクラスの『イーズとグレイス』は、平均点としてはますますの水準だと思います。

上記の池間さんの文を読み、私(林)はMiss Milliganが "Won't you join the dance?" に書いていた文を思い出しました。

Miss Milliganは、good techniqueのかわりに最近footwork (つまりstep) ばかりを強調しすぎる傾向があると懸念したあとで、それでも真に美しく踊るためには正確なfootworkはどうしても必要なものであると述べています。そしてその次に続く Miss Milliganの言葉は池間さんの文とも呼応するので書いてみましょう。

All this precision, however, must be looked on as a means to an end, i.e. a dance delightful to watch, easy, natural and full of social grace and delightful to perform.

(しかしながら、すべてこの正確さというのは一つの目的に向けての手段と見なされるべきものなのです。即ち(その目的と言うのは)、ゆったり(easy)と自然で、社会的な優雅さ(social grace)をたたえていて、見ていて楽しいダンス、また踊って楽しいダンスのことなのです。)



今年はソサイエティ創立75周年と言うこともあり、セント アンドルーズで開かれるサマー スクールに日本からも例年になく大勢が参加されました。その中のお二人にクラスの様子などを中心に書いていただきました。

## 「8年ぶりのサマースクール」

岡 玲子

5年に1度のR. S. C. D. Sの記念の年に1度は参加したいとの思いで、家族の協力を得、諸事には目をつむってサマースクール参加を決めました。前回勉強不足を反省した筈なのに、ダンスは年を経たものの、英語は相変わらずの言語障害のまま、同行の先輩2人に今度はおんぶにだっこにならないようにとの決意だけ固く…。抜けるような青空の下で Arthur's Scatに登ったり(少し大げさ?)、Edinburghで1日を楽しみ St. Andrewsへ。Leuchars駅からのタクシーがユニバーシティホールに着くとジェニファーさんやエルマ先生ご夫妻が入口で出迎えてくださいました。オールドウイングとワードローの風格の有るたたずまいを見上げると改めて懐かしさがこみ上げてきます。そして相変わらずの落ちるのではないかと心配なリフト、同じフロアのお部屋。でもあの年、ここで出会って隣室になり、共に初参加で励まし助け合い、「戦友ね、もっと英語を勉強してまた来ましょう」と言った美智子さんはもう居ないのです。感傷を振り払ってタイムテーブルを見ると、受験の2コースの他に1限は、Elementaryが1, Intermediate 2, Advanced 2, Very Advanced 3, Senior 1, Teachers 2と11ものクラスです。全コースで1000人、受付でセクレタリーに尋ねたところでは約30カ国からの参加とのこと。さすが75周年記念の年と実感。

私は Very AdvancedのD 2クラスで、3人の日本人のクラスメイト、2週目の Teacherに Mrs M Murray, Pianistに Miss J Sim, Miss J Wilson と来日されたことの有る方々のお名前をみつけホッとしました。そしていよいよクラスのスタートです。1限は1時間15分で2曲をかなり丁寧にやりますが、前回の Advanced クラスと比べると、ステップやフォーメーションに対して余り細かな注意がありません。日頃のいい加減さを修正したいと思っていたので、少しがっかりもし、物足りなくも思いましたが、「貴方達はVery Advancedでしょ」という先生の言葉からも、だんだんこのクラスの目ざす所が理解でき、冗談が飛びかい（残念ながら笑いの意味が解ることはまれでしたが）、リラックスした楽しい雰囲気居心地も良くなりました。2限はステップダンス等に行く人が居るものの3つのVery Advancedが一緒になり、多人数になる上に1時間に3曲、それもややこしい曲が多くあちこちでパニックが発生します。私も移動時間にコーヒーを飲んで鈍い頭にカツを入れ、ろばの耳になって……しかし時間の過ぎるのの遅いこと！重くなった足を引きずって帰っていただくランチが楽しみでした。

午後と夜もガーデンパーティ、ダンシングインザストリート、祝賀ディナー、ケイリー、毎夜のソシアルダンシング等々の盛り沢山の行事があります。そしてオプションのクラスに参加したり、試験のボランティアの経験もし、プライベートなパーティにお招きを受けたり、日曜日の Perthでのハイランドゲームズと Edinburghのタトゥ鑑賞のチャンスも得て、その合間を縫って St. Andrews の街も歩き、買い物もと忙しくも充実した日々でした。

この前のようにクラスの皆がこぞって親切に面倒を見てくれると言うことが無いのは、初参加の星マークが無いせいか、Very Advanced Class の為か、それとも日本人が多いから（コース2だけで20名程）でしょうか。とはいうものの聞き取れない時等いろんな人に助けられました。数人と再会を約してアドレスの交換もしました。こんな風にその地でその国の人々と踊るといふ楽しみの他に新しい出会いの喜びが行ります。そしてそれは顔見知りだっただけの日本の仲間の知らなかった素敵さに出会う喜びでもありました。又更にチェアマン夫人でステップダンスの Teacherもされたクレメント アツコさん、ケイリーでハイランドダンスを踊って場内を沸かせた留学中の金子君、ヤンガーホールのカントリーダンスやステップダンスのデモをした東京ランチの諸先輩方の活躍もとても嬉しいことでした（こういう時には同胞意識が高揚します）。私だけのもう一つの喜びは、初めの決意の通り、少しだけ自立して行動出来たことでした。でもロンドンでベルギーに向かう松橋さんと佐藤さんを見送った時はやっぱり心細かったのですが。

このスクールで再確認したS. C. Dの原点を大切に踊り続けたいと思っています。

## 「ソサエティ 75周年記念サマースクールに参加して」

佐藤 雅紀

ソサエティが75周年を迎えた。次は、定年退職してからサマースクールに参加して見ようなどと何となく思っていたが、75周年記念に参加することに意義があると自分なりに勝手な理屈をつけて、思い切ってサマースクールの後半1週間コースだけに参加した。

日曜日の午後にセント・アンドリュースに到着し、サマースクールの参加登録をすませて一安心。太陽はなかなか沈まず遅くまで明るいので、時間の観念がなくなってしまう。

スクールは月曜日から土曜日まで毎日。9:30~10:45は11のクラスに分かれて、11:30~12:30はレディース・ステップ2クラスとメンズ・ハイランド2クラスを含めて11クラスに分かれ、クラス毎にそれぞれ街の中の教会などの会場を移動する。みんながキルトをはいてセント・アンドリュースの街の中を歩いていると、それが自然だと錯覚してしまう。街の中の人、ほとんどキルトをはいていないのに……。

前回参加したインターミディエイトではいつもの例会と同じ感じだったので、今回はベリアドバンス・クラスに参加した。1週間コースは日本人が一人だけ。人数は24人で、4カップルで3セットだったり、3カップルで4セットだったり。ほかのベリアドバンス・クラスはわからないが、トークスルーがあったり、早い英語で聞き取りにくかったりするので4セット目に入ったと思ったら、3カップルでトップになったりして、それでもなんとか楽しくクラスができた。

11:30からは、日本ではあまり経験ができないので、ハイランドのインターミディエイトをとった。クラスは12~3人。体が硬いので最初のストレッチングがきつい。太ったパイパーと顔を見合わせながらジェスチャーで合図、落ちこぼれ組み。ハイランド・フリングを通して行う。いい経験をした。ステップを少し練習してから参加すると、もっと楽しくクラスができたと思うので、ご参考までに申し上げます。

サマースクールでのうわさによると、75周年の今回は参加が多かったので、'99は参加が少ないだろう。2000年には、またイベントが行われるのではないかという。真偽のほどはわからない。

水曜日に公式なセレモニーとディナーがユニバシティのニューホールで行われた。そのうちに、サマースクールも新しい建物の方で行われるようになっていくであろうと思われる。21世紀のカントリー・ダンスはどうあるべきか、みんなに関心を持ち、協力をして行きたいと思う。

★ 5月2日(土)~7月25日(土)まで全6回、高円寺ペギーホールに於いてビギナーコースが開かれました。参加したお二人に、コースを終わっての感想を書いていただきました。

## 《楽しさ満喫!》

中村 寿子

『本当に楽しかったわね。』『私たちでも踊れるのね。』帰り道は誰もがそんな喜びを感じていたことと思います。スコティッシュダンスはパーティーで初めて見てからの憧れでした。音楽にのり優雅に踊る様に感激して、私もいつか踊れたらなあ、と思っていました。

憧れのスコティッシュもいざ始めて見ると、なかなか難問でした。第一に基本のステップの難しさ、いざ曲に合わせた時の動き、間のとり方がわからなくなり皆様に迷惑のかけ通しの私でしたが、第一回の初心者講習会に参加して、基本のステップからはじまりチームでの動き、間のとり方など丁寧に教えていただき、そして仕上げた曲に合わせて踊れた時のなんともいえない気分、喜びでいっぱいになりました。また感激さめやらぬ帰り道では足の痛さも忘れていました。今後も精一杯頑張っていこうと思います。

## 《一步一步着実に》

北村 淳子

今年はどこも”ノースマー”と言われ、日照の少ない湿度の高い毎日が続く夏でしたが、私にとっては、大変素晴らしい貴重な経験を迎える夏になりました。3年前からはじめたフォークダンスも、その分野の広さに益々難しさを感じるようになりやや足踏みをしていた所、折よく開かれた初心者講習会に胸躍らせて参加致しました。じっと立っているだけで汗の流れる暑さの中、初めて習う基本ステップに悪戦苦闘しながらも、あっという間の3時間でした。軽やかに、リズムカルに、信じられない程しなやかに指導して下さる先生のステップを少しでも覚えたいと、思うように動かないわが足が恨めしく情けなく感じられましたが、大変な充足感で一杯でした。日頃使わない私の筋肉達もさぞびっくりしたことでしょう。帰宅した夜は早速”筋肉痛”というお返しがたっぷりありました。でも2回3回と講習が進むにつれ、おぼつかないながらも隊形を組んで簡単なものが踊れるようになり、うまくいった時など皆さんと拍手して喜ぶこともありました。でもある時は、”今度こそうまく踊ってね”と先生のきれいなソプラノの叱咤激励も空しくガチャガチャにくずれたりして。本当に申し訳ありません…。マスターするまでどの位かかるのでしょうか？ 先の見えない道程であっても、少しずつ、少しずつ進んで行きたいものです。スコティッシュに出会った感動の夏に感謝しながら、これからも勉強して行きたいと思います。

☆ 9月23日（水・祝日）にLeaflet 33の5曲の講習が、赤羽台東小学校で行われました。出席できなかった方のためにいくつかの注意点をあげておきます。

### NEW BIGGIN

bar 20の最後は、2nd and 3rd couple は手を離さないで次のhands round に続ける。

### THE OLD WAY OF KILLIECRANKIE

bar 24で、1st womanはいったん2nd womanの位置に入るようなかたちでcurveしてからbar 25のhands acrossにはいる。ダイアグラムの1st couple の位置は中に入りすぎている。

### PERIWIG

bar 12の最後は、1st manはpolite turnをする。

### THE COLONEL

bar 16の最後の1st coupleのturn leftは、ほとんどtouchするぐらいでそのまま真ん中

にとどまり、次のreelに続ける。( Scottish Country Danceでは、touchとは言っても、ちゃんとshake hands )

bar 24と bar 28の最後は1st coupleはきちんとbetween couplesの位置から次の set advancing にはいる。

## 《お知らせ》

- ☆ 東京 brunchの合宿が1999年2月27日(土) - 28日(日)に、石川島研修センターで行われます。
- ☆ 2000年にfull certificateとpreliminary testのtraining courseを予定しています。そのための予備勉強をしたい方はセクレタリまでお問い合わせください。
- ☆ 鈴木百代さんが、カナダでpreliminary testに合格なさいました。
- ☆ 1回目のビギナー コース終了後、引き続きビギナー コースが開かれています。
- ☆ ティーチャーとプレリム合格者によるサブコミティーが発足。

## ★会報末尾の会員住所録の訂正

東京 brunch会報 No. 15 の巻末に掲載されています会員住所録のうち、下記の方々の掲載記事が間違い、又は変更になりました。お詫びと共に訂正いたします。以下の通り住所録を変更して下さい。尚、㊦は郵便番号、住は住所、TELは電話番号を表します。

No.	氏名	訂正 又は変更内容
009	阿部 幸子	TEL 追記 0480-22-7832
034	石川 照	住 2972-12
039	市原 道子	住 741-2
046	岩崎 誠司	} 住 追記 27 Edomond St., Darien, CT06820, U.S.A. TEL 追記 +1(203)973-0190
047	岩崎 由美子	
056	上馬場 孝子	住 569-1, 22-503
058	海老沢 京子	TEL 03-3498-3894
091	鬼塚 浩子	㊦ 345-0826
094	小幡 健一	㊦ 076-291-7294
096	尾身 信晴	住 葛飾区東立石
104	梶野 義枝	㊦ 252-0804
111	金子 美智子	TEL 03-3788-3250
154	小林 千恵子	TEL 0298-22-1797
158	駒井 しげ	TEL 0298-24-5443
162	小山 隆	住 3-85
163	小山 奈緒美	住 3-85
185	櫻井 香枝	TEL 03-3613-0345
208	塩谷 アイ	TEL 0185-54-6845
240	高橋 一子	㊦ 241-0826
262	玉田 淑子	㊦ 501-3121
267	辻 三枝子	㊦ 住 362-0022 上尾市瓦葺尾山台団地 2-6-406
272	手島 トミ子	㊦ 333-0852
263	中沢 フミヨ	㊦ 住 343-0841 越谷市蒲生東町 12-2
290	中野 松美	住 宗像市赤間 314-5, 0012
331	藤田 みよ子	移転 350-0023 川越市並木 307-2-209 0492-35-1837
344	堀 澄子	移転 336-0923 浦和市大間木 1957-804 048-873-8680
352	益崎 守生	移転 651-0063 神戸市中央区宮本通 4-5-10 078-251-4433

# R S C D S 創 立 7 5 周 年 祝 賀 パ ー テ ィ

日時 12月19日(土) 1:00 - 5:00 (受付 12:30より)  
 会場 牛込笹筒区民ホール  
 ( JR-飯田橋駅西口下車15分 地下鉄東西線-神楽坂駅下車10分  
 地下鉄-有楽町・南北線-飯田橋駅下車B3出口徒歩5分 )  
 会費 1000円

☆ ダンス終了後 6:30-8:30までクレメント氏のお話(通訳付き)と、  
 質疑応答の時間が設けられています。めったにないチャンスですからどなたで  
 もどうぞ大勢参加してください。

## プログラム

- Part I The Triumph ( R-4C-24 ) Bk 1  
 Lady Catherine Bruce's Reel ( J-2C-32 ) Gr 7  
 Dalkeith's Strathspey ( S-3C-32 ) Bk 9  
 Flowers of Edinburgh ( R-3C-32 ) Bk 1  
 The Fyket ( J-3C-40 ) Lflt 1965  
 The Silver Tassie ( S-3C-32 ) Lflt
- Part II Montgomerie's Rant ( R-3C-32 ) Bk 10  
 The Duke of Atholl's Reel ( J-2C-32 ) Bk 16  
 Miss Milligan's Strathspey ( S-3C-32 ) Lflt  
 Sleepy Maggie ( R-3C-32 ) Bk 11  
 The Express ( J-3C-40 ) Bk 20  
 Glasgow Country Dance ( M-3C S-16 R-16 ) Bk23

## Tea Time

Demonstration

- Part IV Irish Rover ( R-3C-32 ) Cosh  
 Mrs Stewart's Jig ( J-3C-32 ) Bk 35  
 Sugar Candie ( S-3C-32 ) Bk 26  
 St Andrew's Fair ( J-3C-32 ) Lflt 1982  
 Mrs Milne of Kinneff ( S-SQ-32 ) Lflt 1997  
 The Reel of the Royal Scots ( R-3C-32 ) Lflt

---

354	増本	サチ子	移転	162-0063	新宿区市ヶ谷薬王寺	46-1003	℥変わらず
377	三山	かおり	℥	047-344-3207			
395	山口	京子	住	北区赤羽西	2-14-6-102		
401	山下	岩昭	⊕ 住	351-3313	西彼町風早郷	235	
404	山田	奈加子	移転	810-0032	中央区輝国	2-13-17-102	℥変わらず
412	吉岡	郁子	住	宮代町国納	334-1		
419	若杉	一子	℥	0561-53-2378			
420	若松	陽子	移転	191-0022	日野市新井	405-3	℥変わらず
432	坂本	光子	新入	300-2357	筑波郡伊奈町谷井田	1217-25	0297-58-5612
433	田中	登志子	新入	300-2406	筑波郡谷和原村福岡	1435-2	0297-52-6719

《 グループ告知板 》

- ☆ 11月29日(日) 98 AUTUMN END BALL AKABANE  
場所： 北区浮間区民センター  
時間： 11:00-16:00  
会費： 1,000円  
連絡先：五十嵐成子 (TEL 048-445-1527)
- ☆ 11月29日(日) Scottish Country Dance Party  
場所： ウィリング横浜 体育館  
時間： 13:30-16:30  
会費： 2,000円  
連絡先：尾田久男 (TEL 045-743-2594)
- ☆ 12月13日(日) '98 YEAR-END BALL 東京スコットランドダンスを楽しむ会  
場所： 日本出版クラブ会館  
時間： 13:00-17:00  
会費： 5,000円  
連絡先：福島チイ子 (TEL 03-3330-2845 佐藤方)
- ☆ 12月19日(土) RSCDS創立75周年祝賀パーティ  
前記参照
- ☆ 1999年1月10日(日) ANNUAL / NEW YEAR DANCE 1999  
場所： 武蔵野市 "SWING" 北棟 2階ホール  
時間： 13:30-16:30  
会費： 1,000円  
連絡先：鳥山豊喜 (TEL 044-988-7773)

RSCDS 東京ランチレター 1998.11.3 発行
RSCDS 東京ランチセクレタリー
吉沢敦子 (TEL 0298-41-0767)
〒300-0841 土浦市中 1319-11
編集 林 浩子 (TEL 0424-61-7386)